

生産者から見た海外の日本米市場



株式会社黒澤ファーム
黒澤 信彦

1. 自己紹介
2. なぜ米輸出の取組を開始したのか
3. 生産者から見た海外における日本産米
4. 終わりに



1. 自己紹介

(1) プロフィール

山形県南陽市で450年続く農家の21代目

- 平成3年 米の直売始める
- 平成17年 農業生産法人 有限会社 黒澤ファーム設立
- 平成18年 香港輸出開始
- 平成21年 農業生産法人 株式会社 黒澤ファーム改称
- 平成27年 南陽市池黒1495番地に新社屋・工場完成
- 平成29年 ASIAGAP 取得 (MIC-S-A060000021)
- 平成30年 第21回全国農業担い手サミット in やまがた
全国農業担い手サミット/全国優良経営体表彰
販売革新部門 農林水産大臣賞 受賞



1. 自己紹介

(2) 米作りへの想い

生きることは食

「主食」ではなく「主役」になるお米を作る。

古くから日本人に愛され続けてきたお米は

日本の食文化を語るうえで外せないもの。

黒澤ファームでは、お米を食卓の「主役」に

という使命感を持ち栽培している。



2. なぜ米輸出の取組を開始したのか。

輸出のきっかけは、取引先の海外進出でした。

銀行主催のイベントで、香港商談会には興味があり参加していました。

日本の米を海外の消費地でも味わってもらいたいと思っていました。



3. 生産者から見た海外における日本産米

海外産米と比べると、日本産米は高価だと思います。

しかし、日本食ブームなどによって、和食も本物志向になってきており、
交付金やハイブリット米などの活用で価格を抑えることが出来れば、
海外での販売を増やすチャンスはあるのではないのでしょうか。



4. 終わりに

日本は、人口減少や食生活の変化によって、米の消費量は年間20万トン減少していると言われています。このまま減少が続けば、米の消費量は600万トンで間に合う予想もたってきます。日本全国で900万トンの生産能力があるとなれば、300万トン程度は輸出する必要があるのではないのでしょうか。世界の人口が増加していることを考えると、米の生産量はとても重要だと思えます。中国市場がさらに開放されることがあれば、日本米の輸出はますます拡大していくことも予想されます。世界最高の米を海外に発信していくことは、日本の国益になる事業になっていくと考えます。



ご清聴ありがとうございました！！

